

第 3 8 4 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項 ②

令和7年4月15日

日 本 学 術 会 議

公 開 審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等
-------	-----	-----------	------------------------------------	-----	-------

Ⅲ 公開審議事項

1. 規則関係

提案 1	「意思の表出等の作成手続について」の一部を改正すること	会長	4	日本学術会議の意思の表出等に係る英語表記について変更することに伴い、「意思の表出等の作成手続について」を改正する必要があるため。	三枝副会長	—
------	-----------------------------	----	---	--	-------	---

2. 委員会関係

提案 2	(幹事会附置委員会) 外部評価対応委員会委員の決定 (追加 1 件)	会長	6	外部評価対応委員会委員を決定する必要があるため。	会長	内規12条 2 項
提案 3	(機能別委員会) 選考委員会委員の決定 (追加 1 件)	会長	7	選考委員会委員を決定する必要があるため。	会長	内規12条 2 項
提案 4	(機能別委員会) (1) 科学と社会委員会委員の決定 (追加 1 件) (2) 分科会委員の決定 (追加 1 件)	会長	8	科学と社会委員会委員及び年次報告検討分科会委員を決定する必要があるため。	磯副会長	(1) 内規12条 2 項 (2) 内規18条
提案 5	(機能別委員会) (1) 国際委員会運営要綱の一部改正 (新規設置 1 件) (2) 国際委員会分科会委員の決定 (新規 1 件)	(1) 国際委員会委員長 (2) 会長	9	国際委員会に分科会を設置することに伴い、国際委員会運営要綱を一部改正するとともに、分科会委員を決定する必要があるため。	日比谷副会長	(1) 会則27条 1 項 (2) 内規18条
提案 6	(分野別委員会) 分科会委員の決定 (追加 2 件)	第一部長	12	分科会委員を決定する必要があるため。	第一部長	内規18条

3. 国際関係

提案 7	令和 7 年度代表派遣について、実施計画の変更及び派遣者を決定すること	会長	13	令和 7 年度代表派遣について、実施計画の変更及び派遣者を決定する必要があるため。	日比谷副会長	国際交流事業の実施に関する内規19条 2 項、21条
提案 8	令和 7 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の決定について	会長	14	令和 7 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣を決定する必要があるため。 ※国際委員会 4 月11日承認、 同フューチャー・アースの国際的展開対応分科会 3 月31日承認	日比谷副会長	国際学術交流事業の実施に関する内規57条 5 項

4. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【令和7年度第1四半期】（追加）

提案9	公開シンポジウム 「スポーツと情報 （仮題）」の開催に ついて	健康・生活科学 委員会委員長	15	主催：日本学術会議健康・生活科学委員 会健康・スポーツ科学分科会 日時：令和7年6月21日（土）13：00～ 16：25 場所：日本学術会議講堂（東京都港区） （ハイブリッド開催）	—	内規別表第 2
-----	--	-------------------	----	---	---	------------

5. その他のシンポジウム等

提案10	公開シンポジウム 「化学の魅力を小中 高校生に、社会に、 伝える」の開催につ いて	化学委員会委員 長	17	主催：日本学術会議化学委員会、化学委 員会化学企画分科会 日時：令和7年6月4日（水）13：30～ 17：15 場所：分子科学研究所研究棟201号室 （愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38） （ハイブリッド開催）	—	内規別表第 2
提案11	公開シンポジウム 「安全工学シンポジ ウム2025」の開催に ついて	総合工学委員会 委員長、機械工 学委員会委員長	19	主催：日本学術会議総合工学委員会・機 械工学委員会合同工学システムに関する 安全・安心・リスク検討分科会 日時：令和7年6月25日（水）～6月27 日（金）9：30～17：00 場所：日本学術会議講堂、会議室5－ A(1)、6-A((1)(2))、6－ C((1)(2))（東京都港区）（ハイブ リッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第 2
提案12	公開シンポジウム 「BVOC研究の新展開 ー進化論から新規計 測法、大気質影響ま での最新の知見ー」 の開催について	農学委員会委員 長、基礎生物学 委員会委員長、 統合生物学委員 会委員長	30	主催：日本学術会議農学委員会農業生産 環境工学分科会、統合生物学委員会・基 礎生物学委員会合同生態科学分科会 日時：令和7年6月27日（金）13：00～ 17：00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第 2
提案13	公開シンポジウム 「危機にある「戦争 関連資料」ー歴史的 文化遺産として残す ためにー （第30回史料保存利 用問題シンポジウ ム）」	史学委員会委員 長	32	主催：日本学術会議史学委員会、史学委 員会アーカイブズと社会に関する分科 会、日本歴史学協会 日時：令和7年6月28日（土）13：30 ～17：30 場所：一橋大学国立キャンパス東2号館 2201室（東京都国立市中2－1）（ハイ ブリッド開催） ※第一部承認	—	内規別表第 2
提案14	公開シンポジウム 「カーボンニュート ラルに向けた水素の 多面的な利活用～第1 回 水素を作る～ （仮）」の開催につ いて	物理学委員会委 員長、化学委員 会委員長、総合 工学委員会委員 長、材料工学委 員会委員長	34	主催：物理学委員会、材料工学委員会、 化学委員会、総合工学委員会 日時：令和7年8月1日（金）9：30 ～17：00 場所：日本学術会議講堂（東京都港区） （ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第 2
提案15	公開シンポジウム 「マテリアルとライ フの融合サイエン ス」の開催について	歯学委員会委員 長	36	主催：日本学術会議歯学委員会基礎系歯 学分科会、一般社団法人歯科基礎医学会 日時：令和7年9月5日（金）17：40～ 19：10 場所：北九州国際会議場（福岡県北九州 市小倉北区浅野3丁目9-30）	—	内規別表第 2

6. 後援

提案16	国内会議の後援をすること	会長	38	以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ・Japan Open Science Summit 2025 (JOSS2025) ・こども環境学会2025年大会（高知）『インクルーシブなこども環境ーこどもの自由は土佐の山間よりー』	—	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	----	---	---	-----------------

7. その他

件名		資料(頁)
参考	今後の予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は5月30日（金）14:30～に開催予定。	39

意思の表出等の作成手続について（令和3年12月24日日本学術会議第320回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後	改 正 前																																								
I. ～V. (略)	I. ～V. (同左)																																								
VI. 英訳の取扱いについて	VI. 英訳の取扱いについて																																								
1. ～8. (略)	1. ～8. (同左)																																								
9. 委員会等の名称の英訳 委員会等の名称の英訳を、以下のとおり定める。	9. 委員会等の名称の英訳 委員会等の名称の英訳を、以下のとおり定める。																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>組織名（和文）</th><th>英訳</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(略)</td><td></td></tr> <tr> <td>課題別委員会</td><td>Issue-oriented Committees</td></tr> <tr> <td>(略)</td><td></td></tr> <tr> <td><u>(削除)</u></td><td></td></tr> <tr> <td>(略)</td><td></td></tr> <tr> <td><u>(削除)</u></td><td></td></tr> <tr> <td><u>(削除)</u></td><td></td></tr> <tr> <td><u>(削除)</u></td><td></td></tr> <tr> <td><u>(削除)</u></td><td></td></tr> </tbody> </table>	組織名（和文）	英訳	(略)		課題別委員会	Issue-oriented Committees	(略)		<u>(削除)</u>		(略)		<u>(削除)</u>		<u>(削除)</u>		<u>(削除)</u>		<u>(削除)</u>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>組織名（和文）</th><th>英訳</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(同左)</td><td></td></tr> <tr> <td>課題別委員会</td><td>Issue-oriented Committees</td></tr> <tr> <td>(同左)</td><td></td></tr> <tr> <td><u>人口縮小社会における問題 解決のための検討委員会</u></td><td><u>Committee on Finding Solutions in the Society with Declining Population</u></td></tr> <tr> <td>(同左)</td><td></td></tr> <tr> <td><u>オープンサイエンスを推進 するデータ基盤とその利活 用に関する検討委員会</u></td><td><u>Committee on Data Platform for Open Science and its Application</u></td></tr> <tr> <td><u>自動運転の社会実装と次世 代モビリティによる社会デ ザイン検討委員会</u></td><td><u>Committee on Designing Society by Implementation of Automated Driving for Future Generation Mobility</u></td></tr> <tr> <td><u>学術情報のデジタルトラン スフォーメーションを推進 する学術情報の基盤形成に 関する検討委員会</u></td><td><u>Committee for the Promotion of Digital Transformation of Scholarly Information</u></td></tr> <tr> <td><u>大学教育の分野別質保証委 員会</u></td><td><u>Committee for Subject Quality Assurance in Higher Education</u></td></tr> </tbody> </table>	組織名（和文）	英訳	(同左)		課題別委員会	Issue-oriented Committees	(同左)		<u>人口縮小社会における問題 解決のための検討委員会</u>	<u>Committee on Finding Solutions in the Society with Declining Population</u>	(同左)		<u>オープンサイエンスを推進 するデータ基盤とその利活 用に関する検討委員会</u>	<u>Committee on Data Platform for Open Science and its Application</u>	<u>自動運転の社会実装と次世 代モビリティによる社会デ ザイン検討委員会</u>	<u>Committee on Designing Society by Implementation of Automated Driving for Future Generation Mobility</u>	<u>学術情報のデジタルトラン スフォーメーションを推進 する学術情報の基盤形成に 関する検討委員会</u>	<u>Committee for the Promotion of Digital Transformation of Scholarly Information</u>	<u>大学教育の分野別質保証委 員会</u>	<u>Committee for Subject Quality Assurance in Higher Education</u>
組織名（和文）	英訳																																								
(略)																																									
課題別委員会	Issue-oriented Committees																																								
(略)																																									
<u>(削除)</u>																																									
(略)																																									
<u>(削除)</u>																																									
<u>(削除)</u>																																									
<u>(削除)</u>																																									
<u>(削除)</u>																																									
組織名（和文）	英訳																																								
(同左)																																									
課題別委員会	Issue-oriented Committees																																								
(同左)																																									
<u>人口縮小社会における問題 解決のための検討委員会</u>	<u>Committee on Finding Solutions in the Society with Declining Population</u>																																								
(同左)																																									
<u>オープンサイエンスを推進 するデータ基盤とその利活 用に関する検討委員会</u>	<u>Committee on Data Platform for Open Science and its Application</u>																																								
<u>自動運転の社会実装と次世 代モビリティによる社会デ ザイン検討委員会</u>	<u>Committee on Designing Society by Implementation of Automated Driving for Future Generation Mobility</u>																																								
<u>学術情報のデジタルトラン スフォーメーションを推進 する学術情報の基盤形成に 関する検討委員会</u>	<u>Committee for the Promotion of Digital Transformation of Scholarly Information</u>																																								
<u>大学教育の分野別質保証委 員会</u>	<u>Committee for Subject Quality Assurance in Higher Education</u>																																								

<u>循環経済を活かし自然再興 と調和する炭素中立社会へ の移行に関する検討委員会</u>	<u>Committee for Transition to Carbon-Neutral Society Harmonized with Nature Restoration by Employing Circular Economy</u>	<u>(新規)</u>	
(略)		(同左)	
<u>(削除)</u>		<u>ヒトゲノム編集技術のガバ ナンスと基礎研究・臨床応 用に関する委員会</u>	<u>Committee on Governance, Basic Research and Clinical Applications of Human Genome Editing Technology</u>
<u>学術を核とした地方活性化 の促進に関する検討委員会</u>	<u>Committee for the Promotion of Academic-Based Regional Revitalization</u>	<u>(新規)</u>	
(略)		(同左)	

附 則（令和 年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

【幹事会附置委員会】

○委員会委員の決定（追加 1 件）

（外部評価対応委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
只野 雅人	一橋大学大学院法学研究科教授	第一部会員

【設置：第 358 回幹事会（令和 5 年 11 月 27 日）、追加決定後の委員数：6 名】

【機能別委員会】

○委員会委員の決定（追加 1 件）

（選考委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
只野 雅人	一橋大学大学院法学研究科教授	第一部会員 (副部長)

【設置：常置（細則第 10 条第 1 項）、追加決定後の委員数：16 名】

【機能別委員会】

○委員会委員の決定（追加 1 件）

（科学と社会委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
只野 雅人	一橋大学大学院法学研究科教授	第一部会員

【設置：常置（細則第 10 条 1 項）、追加決定後の委員数：11 名】

○分科会委員の決定（追加 1 件）

（科学と社会委員会年次報告検討分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
只野 雅人	一橋大学大学院法学研究科教授	第一部会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：6 名】

国際委員会運営要綱（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後				改 正 前			
(組織) 第 1 (略)				(組織) 第 1 (同左)			
(分科会等) 第 2 (略)				(分科会等) 第 2 (同左)			
分科会等	調査審議事項	構成	備考	分科会等	調査審議事項	構成	備考
(略)				(同左)			
科学者に関する国際人権対応分科会	(略)	(略)	(略)	科学者に関する国際人権対応分科会	(同左)	(同左)	(同左)
持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 <u>2025</u> 分科会	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 <u>2025</u> を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関すること	副会長（日本学術会議会則第 5 条第 3 号担当）及び会員又は連携会員 <u>若干名</u>	設置期間：令和 <u>7</u> 年 <u>4</u> 月 <u>15</u> 日～令和 8 年 3 月 31 日	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 <u>2024</u> 分科会	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 <u>2024</u> を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関すること	副会長（日本学術会議会則第 5 条第 3 号担当）及び会員又は連携会員	設置期間：令和 <u>6</u> 年 <u>3</u> 月 <u>25</u> 日～令和 <u>7</u> 年 3 月 31 日
(略)				(同左)			
第 3 ～ 第 4 (略)				第 3 ～ 第 4 (同左)			

附 則（令和 年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）

この決定は、決定の日から施行する。

国際委員会分科会の設置について

分科会等名：持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2025 分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	国際委員会
2	委員の構成	副会長(日本学術会議会則第5条第3号担当)及び会員又は連携会員若干名
3	設置目的	本分科会は、持続可能な社会の実現に向けた地球規模の課題に対し様々な側面から議論を行い、その解決策を探るため、日本学術会議が年1回開催している国際会議の企画及び実施を目的とし設置する。
4	審議事項	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2025を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関すること
5	設置期間	令和7年4月15日～令和8年3月31日
6	備考	※平成15年から「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議」を毎年開催しており、そのための分科会を都度設置している。

【機能別委員会】

○分科会委員の決定（新規 1 件）

（国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2025 分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
大垣 昌夫	同志社大学経済学部特別客員教授	第一部会員
日比谷 潤子	国際基督教大学名誉教授	第一部会員 副会長
磯 博康	国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長／理事長特任補佐	第二部会員 副会長
狩野 光伸	岡山大学副理事／副学長／学術研究院ヘルスシステム統合科学学域教授	第二部会員
北島 薫	京都大学大学院農学研究科教授	第二部会員
奥村 幸子	日本女子大学理学部数物情報科学科教授	第三部幹事 第三部会員
菅 裕明	東京大学大学院理学系研究科教授	第三部会員
小谷 元子	理化学研究所理事長特別補佐（領域総括）／開拓研究本部開拓研究所所長／数理創造研究センター数理展開部門数学応用研究チームチームディレクター／東北大学理事	連携会員
阪 智香	関西学院大学商学部教授	連携会員
菅野 早紀	青山学院大学経済学部准教授	連携会員

【設置予定：第 384 回幹事会（令和 7 年 4 月 15 日）、決定後の委員数：10 名】

【分野別委員会】

○分科会委員の決定（追加 2 件）

（法学委員会 ICT 社会と法分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
山田 八千子	中央大学法科大学院教授／弁護士	第一部会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：16 名】

（経営学委員会・健康・生活科学委員会・総合工学委員会合同価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
上條 正義	信州大学繊維学部教授	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：15 名】

令和7年度代表派遣実施計画の変更について

以下のとおり、令和7年度代表派遣実施計画(第 381 回幹事会(令和7年2月 27 日)にて承認済)の変更を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
1	太陽地球系物理学・科学委員会(SCOSTEP)理事会	4月27日 ～ 5月3日 ↓ 4月27日 ～ 5月2日	ウィーン (オーストリア)	石井 守 連携会員(特任) (国立研究開発法人情報通信研究機構 電磁波研究所・総括研究員／名古屋大 学宇宙地球環境研究所特任教授)	地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会	・会期の変更
2	第 15 回グローバルヤングアカデミー(GYA)総会	6月8日 ～ 6月14日	ハイデラバード (インド)	安田 仁奈 連携会員 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授)	若手アカデミー	・派遣者の変更及び決定 ※現地出席予定 ※小野悠連携会員の都合により変更。
3	第 15 回グローバルヤングアカデミー(GYA)総会	6月8日 ～ 6月14日	ハイデラバード (インド)	松山 亮太(※1) — (酪農学園大学獣医学群獣医学類講師)	若手アカデミー	・派遣者の変更及び決定 ※現地出席予定 ※標葉隆馬連携会員の都合により変更。

(注)

(※1) 当該派遣候補者は、連携会員(特任)に承認されることを条件とする。

令和7年度フューチャー・アースに関する国際会議への代表者の派遣について

番号	国際会議等	会 期		開催地及び 用務地／開催形 式	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			
1	Sustainability Research & Innovation (SRI) Congress 2025 Africa Satellite Event	6月4日 ～ 6月6日	3日	ナイロビ (ケニア) ／ ハイブリッド形式	春日 文子 連携会員 (長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科／プラネタリーヘルス学環教授)	第2区分(※1) ※現地出席予定
	Sustainability Research & Innovation (SRI) Congress 2025	6月16日 ～ 6月19日	4日	シカゴ (米国) ／ ハイブリッド形式	渡辺 知保 連携会員 (長崎大学大学院プラネタリーヘルス学環教授)	第2区分(※1) ※現地出席予定

(※1) 令和7年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（令和7年2月27日日本学術会議第381回幹事会決定）に基づく区分

公開シンポジウム
「スポーツと情報（仮題）」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：スポーツ庁、経済産業省、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）、公益財団法人スペシャルオリンピックス日本（SON）、公益財団法人日本スポーツ協会（JSP0）、公益財団法人日本パラスポーツ協会（JPSA）日本パラリンピック委員会（JPC）、一般社団法人日本体育・スポーツ・健康学会（全て予定）
4. 日 時：令和 7（2025）年 6 月 21 日（土）13：00 ～ 16：55
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：
近年、センシング、機械学習、ヴァーチャルリアリティ（VR）といった情報処理技術のスポーツ分野への導入が急加速しており、選手、チーム、審判、メディア、ファンそれぞれの在り方に一大変革をもたらしている。本シンポジウムでは、試合データの統計的分析に基づいて選手評価や戦略立案を行う「スポーツアナリティクス」、選手やボールのトラッキング技術を利用した「AI 審判」、計測機器や VR などを利用した技能トレーニング、脳や身体の生理情報の解析によるメンタルコンディショニング、急拡大する e スポーツやアクティブビデオゲームなどのトピックスに関して最新的话题を提供いただき、情報技術がスポーツ、ひいてはウェルビーイングをどう変えるか、可能性と課題について議論する。
9. 次 第：
13:00 挨拶
山口 香（日本学術会議第二部会員／筑波大学体育系教授）
（調整中）室伏 広治（スポーツ庁長官）
13:05 趣旨説明 [20 分間]

柏野 牧夫(日本学術会議連携会員／日本電信電話株式会社コ
ミュニケーション科学基礎研究所 NTT フェロー)

第1セッション「情報テクノロジーをスポーツに生かせるか？」

◇第1セッション司会

神崎 素樹(日本学術会議連携会員／京都大学大学院人間・環境学研究科
教授)

13:25 『AI を用いた集団スポーツのデータ解析』

藤井 慶輔(名古屋大学大学院情報学研究科准教授)

13:55 『AI のスポーツ審判』

江間 有沙(東京大学国際高等研究所東京カレッジ准教授)

休憩(10分)(14:25～14:35)

第2セッション「情報を用いたスポーツとウェルビーイングへの応用」

◇第2セッション司会

中村 真理子(日本学術会議連携会員／独立行政法人日本スポーツ振興
センターハイパフォーマンススポーツセンター国立ス
ポーツ科学センタースポーツ科学研究部門副主任研究員)

14:35 『ソフトボール競技のアナリストによる分析の活用』

大田 穂(順天堂大学スポーツ健康科学部助教)

14:55 『カーリングの競技支援を目的とした工学的アプローチによる
実証研究』

相原 伸平(独立行政法人日本スポーツ振興センターハイパ
フォーマンススポーツセンター国立スポーツ科学セン
タースポーツ情報処理技術研究室室長)

15:25 『ウェアラブルやアクティブビデオゲームによる健康づくり』

宮地 元彦(日本学術会議連携会員／早稲田大学スポーツ科学学
術院教授)

休憩(10分)(15:55～16:05)

総合討論

司会：柏野 牧夫(日本学術会議連携会員／日本電信電話株式会社コ
ミュニケーション科学基礎研究所 NTT フェロー)

16:05 (50分間)

16:55 閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「化学の魅力を小中高校生に、社会に、伝える」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議化学委員会、化学委員会化学企画分科会
2. 共 催：大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所、
公益社団法人日本化学会戦略企画委員会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 7（2025）年 6 月 4 日（水）13：30 ～ 17：15
5. 場所：大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所研究棟 201 号室
（愛知県岡崎市明大寺町字西郷中 38）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

本シンポジウムは、日本学術会議化学委員会、同委員会化学企画分科会、大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所、及び日本化学会戦略企画委員会の合同開催会議として毎年開催し、化学分野における様々な重要課題を取り上げて議論し提言、見解等を発出してきた。今回は、化学及び周辺分野の重要性、将来性、魅力を初等・中等教育レベルの若い世代や社会にどう伝えるか、多様な観点から議論する。化学は理科系の学術の基盤となる分野の一つであり、物理学、生命科学等にわたる様々な学術分野との極めて多様な接点がある。環境学も化学を抜きにして語ることはできない。日常生活でも多くの最先端化学の成果が身近に利用されている。しかしこの身近さ故もあってか、化学を志す学生数は伸び悩んでいる現実があり、この状況は将来の学術全体に影響を及ぼす可能性も危惧される。欧米でも一部で同様の状況があるとの指摘もある。日本学術会議化学委員会、同委員会化学企画分科会では、化学分野にとどまらず、広くサイエンスの重要性と将来性、魅力を、これから進路を決めようとする若い世代に伝えるための方策を考える必要があると考え、今回これをテーマとしてシンポジウムを企画することとした。本シンポジウムは、単に化学、サイエンスに関わる議論をするものではなく、様々な立場の方々を巻き込んで、我が国の科学の振興にうねりを作ることでできる場を創ることを目指す。

9. 次 第：

司会 山本 浩史（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所教授／総合研究大学院大学先端学術院教授）

13：30 挨拶

渡辺 芳人（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所所長）

13：40 化学委員会報告及び趣旨説明

岡本 裕巳（日本学術会議第三部会員、大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所教授）

13：55 講演「(講演内容について、現在調整中)」

小野 賢志（文部科学省文部科学広報官・大臣官房総務課広報室長）

14：30 講演「京都大学工学研究科での高校生の訪問受入れと体験実験の紹介（仮）」

近藤 輝幸（京都大学大学院工学研究科物質エネルギー化学専攻教授／日本化学会化学教育ディビジョン主査、前副会長、教育・普及部門長）

15：05 休憩

15：25 講演「科学とともに科学者を伝える（仮）」

坂田 薫（化学講師）

16：00 講演「一人ひとりが魅力の伝道者（仮）」

杉森 純（読売新聞科学部記者）

16：35 総合討論

（司会）玉田 薫（日本学術会議第三部会員／九州大学主幹教授・副学長）

17：15 閉会

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会・分科会委員）

公開シンポジウム
「安全工学シンポジウム 2025」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会
2. 共 催：一般社団法人日本原子力学会（幹事学会）、特定非営利活動法人安全工学学会、公益社団法人化学工学会、一般社団法人火薬学会、公益社団法人計測自動制御学会、公益社団法人自動車技術会、一般社団法人静電気学会、一般社団法人地域安全学会、公益社団法人低温工学・超電導学会、公益社団法人電気化学学会、一般社団法人電気学会、一般社団法人電気設備学会、一般社団法人電子情報通信学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本化学会、公益社団法人日本火災学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人日本技術士会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本高圧力技術協会、一般社団法人日本航空宇宙学会、公益社団法人日本材料学会、日本信頼性学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、一般社団法人日本鉄鋼協会、一般社団法人日本人間工学会、一般社団法人日本燃焼学会、一般社団法人日本非破壊検査協会、一般社団法人日本溶接協会、一般社団法人日本リスク学会、公益社団法人日本冷凍空調学会、日本素材物性学会（全て予定）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 7（2025）年 6 月 25 日（水）10：00 ～ 17：00
6 月 26 日（木） 9：40 ～ 16：40
6 月 27 日（金） 9：40 ～ 16：40
5. 場 所：日本学術会議講堂、会議室 5-A(1)、6-A((1)(2))、6-C((1)(2))
（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）
4つのパラレルセッションで、全ての会場でハイブリッド開催
（第 1 室：講堂、第 2 室：6-A((1)(2))、第 3 室：6-C((1)(2))、第 4 室：5-A(1)を会場として使用）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

本シンポジウムは、わが国における安全に関する学際的なシンポジウムとして日本学術会議主催で 40 年以上にわたり継続して実施されてきている。毎年幹事学会が順番で担当し、実行委員会を組織し、テーマを決めて実施する。令和 7（2025）年度は、第 55 回として日本原子力学会が幹事学会となって企画・運営を行い、「社会と工学で共創する安全」のテーマのもと開催される。共催学会名にみられるように多分野の研究者の発表の場であり、意見交換の場にもなっている。異分野間での安全に対する取組の差異、あるいは共通する理念について有意義な意見交換が期待でき、日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会で進めている「カーボンニュートラル施策推進のためのリスクフレーム構築」、「変化する社会と技術に対応する安全とリスク」、「工学システムに対する安心感」をはじめとする検討成果について広く一般への発表がなされるとともに、多分野の専門家からの意見集約も期待できる。

9. 次 第：

【6月25日（水）10:00～17:00】

第1室（講堂）

10:00～10:10 開会式・開会挨拶：

玉田 薫（日本学術会議第三部会員／九州大学主幹教授・副学長）

10:10～11:40 パネルディスカッション

「リスク概念を活用した安全な産業社会の構築 Iーリスク評価とその活用 現状と課題ー」
ファシリテーター：牟田 仁（東京都市大学理工学部原子力安全工学科教授）

パネリスト：高田 孝（東京大学大学院工学系研究科教授）

田邊 雅幸（横浜国立大学 IMS 客員准教授）

佐藤 崇行（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構有人宇宙技術部門技術領域主幹）

12:40～14:10 パネルディスカッション

「リスク概念を活用した安全な産業社会の構築 IIー先進技術システムのリスクアセスメントの構造ー」

ファシリテーター：野口 和彦（日本学術会議連携会員／横浜国立大学 IMS リスク共生社会創造センター客員教授）

パネリスト：調整中

14:20～15:20 特別講演「安全の価値実現のためのマネジメントシステム（仮）」

講演者：関村 直人（日本学術会議連携会員／東京大学名誉教授／東京大学大学院工学系研究科上席研究員）

司会：山本 章夫（名古屋大学大学院工学研究科教授）

15：30～17：00 連携パネルディスカッション

「安全をマネジメントする枠組みの現状と課題：社会と共創する安全マネジメントの実現に向けて」

ファシリテーター：山本 章夫（名古屋大学大学院工学研究科教授）

パネリスト：中野 公彦（東京大学生産技術研究所教授）

野口 和彦（日本学術会議連携会員／横浜国立大学 IMS リスク共生社会創造センター客員教授）

更田 豊志（原子力損害賠償・廃炉等支援機構上席技監／東京大学大学院工学系研究科上席研究員）

神谷 祥二（川崎重工業株式会社技術開発本部技術企画推進センター）他

第2室

10：10～12：10 オーガナイズドセッション

「フロン系冷媒の代替に伴うリスクについて」

司会：辻 佳子（日本学術会議連携会員／東京大学環境安全研究センター教授）

趣旨説明：菊池 康紀（東京大学未来ビジョン研究センター教授）

1 冷媒に関する最近の政策的議論について

齋藤 潔（早稲田大学基幹理工学部機械科学・航空宇宙学科教授）

2 冷媒とライフサイクル思考

菊池 康紀（東京大学未来ビジョン研究センター教授）

3 代替冷媒プロパンの化学物質としてのハザード（潜在危険性）

土橋 律（東京理科大学創域理工学研究科教授）

4 冷凍設備の事故統計分析と社会の視点から冷媒代替に伴うリスクを考える

澁谷 忠弘（日本学術会議連携会員（特任）／横浜国立大学総合学術高等研究院教授）

総合討論

ファシリテーター：辻 佳子（日本学術会議連携会員／東京大学環境安全研究センター教授）

12：40～14：10 オーガナイズドセッション

「本質安全（固有安全）とはなにか 一定義及び事例で考える」

司会：福田 隆文（長岡技術科学大学技術経営研究科教授）

1 本質安全（固有安全）の基礎概念について

柴垣 光男（日本信頼性学会安全学研究会主査）

2 鉄道信号における安全性・信頼性確保の考え方と事例

服部 鉄範（東日本旅客鉄道株式会社）

- 3 化学プラントの「本質的により安全な対策」とその他の安全対策の紹介
上田 邦治（千代田化工建設株式会社技術本部設計安全・防消火・環境部）

第3室

10：10～11：50 オーガナイズドセッション

「ノンテクニカルスキル教育の普及」

司会：南川 忠男（南川行動特性研究所代表）

- 1 ノンテクニカルスキル2.0の提唱 堤 克一路（ENEOS 株式会社）
- 2 ノンテクニカルスキル教育の体制と経営者の責務 堤 克一路（ENEOS 株式会社）
- 3 ノンテクニカルスキル教育の普及の課題 南川 忠男（南川行動特性研究所）
- 4 花王のノンテクニカルスキル教育 山下 三晴（花王株式会社）
- 5 ノンテクニカルスキル体験教室の概要 南川 忠男（南川行動特性研究所）

12：40～14：10 オーガナイズドセッション

「現代の地震火災リスクと対策の課題とは ～阪神・淡路大震災30年を期に～」

司会：岩見 達也（国土交通省国土技術政策総合研究所都市研究部都市防災研究室長）

講演者：調整中

第4室

10：10～11：50 一般セッション

12：40～14：00 一般セッション

【6月26日（木）9：40～16：40】

第1室（講堂）

9：40～11：40 オーガナイズドセッション

「新技術に対する安心感の理解と社会受容」

司会：庄司 裕子（日本学術会議連携会員／中央大学理工学部教授）

大倉 典子（日本学術会議連携会員／中央大学研究開発機構機構教授・芝浦工業大学名誉教授）

- 1 食料安全保障と安心感
大倉 典子（日本学術会議連携会員／中央大学研究開発機構機構教授・芝浦工業大学名誉教授）
- 2 AI が生成するコンテンツは信頼できるのか？ ―書籍推薦文の品質と受容意識の分析―
丸 千尋（中央大学理工学部助教）
- 3 生活機能多様性に向けた安全性と安心感のデザイン

西田 佳史（日本学術会議連携会員／東京科学大学工学院機械系教授）

4 不安感動態を再現する数理モデルの提案

大野 航太（中央大学理工学部特任准教授）

5 先端技術の社会的受容と「安心感」－「カワイイ」感性の役割－

遠藤 薫（日本学術会議連携会員／学習院大学名誉教授）

13：00～14：30 基調講演「社会との共生を目指した教育現場からの安全（仮）」

講演者：安彦 広斉（信州大学理事・事務局長）

司会：澁谷 忠弘（日本学術会議連携会員（特任）／横浜国立大学総合学術高等研究院教授）

北條 理恵子（長岡技術科学大学工学研究科准教授）

14：40～16：10 オーガナイズドセッション

「カーボンニュートラル施策のリスク検討フレーム－プラスチックリサイクル施策を例として－」

司会：平尾 雅彦（日本学術会議連携会員／東京大学先端科学技術研究センターシニアリサーチフェロー）

1 循環型産業への転換によるカーボン・インディペンデンスの実現

辻 佳子（日本学術会議連携会員／東京大学環境安全研究センター教授）

2 プラスチックリサイクルのリスクと社会実装（仮題）

佐々木 義純（住友化学株式会社常務執行役員）

3 アジアから見た日本のプラスチック施策のリスク（仮題）

小島 道一（独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所新領域研究センター上席主任調査研究員）

4 総合討論

平尾 雅彦（日本学術会議連携会員／東京大学先端科学技術研究センターシニアリサーチフェロー）

第2室

10：00～（セッション時間未申告） オーガナイズドセッション

「脱炭素社会に向けた燃焼および関連技術」

司会：石井 一洋（横浜国立大学大学院工学研究院システムの創生部門教授）

朝原 誠（岐阜大学工学部機械工学科准教授）

1 ボイラーの脱炭素化に向けた水素利用技術

高嶋 洋平（三菱重工パワーインダストリー株式会社プロジェクト事業部ボイラ技術部ボイラ技術課長）

2 2MW 級ガスタービンにおける液体アンモニア専焼技術の開発

内田 正宏（株式会社 IHI 技術開発本部技術基盤センターエネルギー変換グループ
主査）

13：00～14：30 オーガナイズドセッション

「新技術（生成 AI）等を用いた危機管理における人と社会システム信頼性・安全性の手法と課題（仮）」

司会：有友 春樹（一般財団法人河川情報センター流域情報事業部副参事）

高橋 亨輔（香川大学創造工学部准教授）

- 1 生成 AI 時代のインフラ工学の将来像（仮）
全 邦釘（東京大学大学院工学系研究科特任准教授）
- 2 防災気象情報と IoT センサに基づく道路面温度予測に関する研究（仮）
成 基昌（立命館大学大学院理工学研究科環境都市専攻）
- 3 鋼橋の設計・維持管理に対する AI 活用事例について（仮）
河原 宏紀（株式会社横河技術情報）

14：40～16：10 オーガナイズドセッション

「航空機の安全性向上技術」

司会：岡田 孝雄（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構航空技術部門主任研究開発員）

- 1 航空の安全技術研究の取り組み
神田 淳（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構航空技術部門航空安全イノベーションハブ長）
- 2 航空機における着氷現象と防除氷対策
山本 誠（日本学術会議連携会員／東京理科大学工学部機械工学科教授）
- 3 風力発電設備を活用した滑走路横風低減・制御に関する調査・研究
中澤 正博（北海道エアポート株式会社総合企画本部空港計画部部長）
- 4 航空機搭載用偏光ライダーによる火山灰遠隔観測
井之口 浜木（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構航空技術部門航空システム研究ユニット研究領域主幹）
- 5 GNSS ジャミング／スプーフィングとアレーアンテナによる軽減技術
辻井 利昭（大阪公立大学大学院工学研究科教授）
- 6 有人機・無人機の高密運航管理技術による安全確保
アンドレエバ森 アドリアナ（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構航空技術部門主任研究開発員）

第3室

10:00～11:20 一般セッション

13:00～14:30 オーガナイズドセッション

「基準値のからくりー災害・原発事故関係の基準値と受け入れられないリスクの関係」

司会：永井 孝志（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農業環境研究部門
上級研究員）

藤井 健吉（日本学術会議連携会員／花王株式会社研究開発部門研究主幹／研究戦略・企画部部長）

竹田 宜人（北海道大学大学院工学研究院客員教授）

1 原発の安全目標

小野 恭子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人産業技術総合研究所安全科学
研究部門研究グループ長）

2 ALPS 処理水の海洋放出の基準と化学物質の排水基準との比較

永井 孝志（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農業環境研究部門
上級研究員）

3 除去土壌の再生利用

村上 道夫（大阪大学感染症総合教育研究拠点教授）

4 防潮堤の高さ

岸本 充生（日本学術会議連携会員／大阪大学D3センター教授・社会技術共創研
究センター長）

14:40～16:10 オーガナイズドセッション

「安全文化の原理の解明とその枠組み」

司会：熊谷 和夫（公益社団法人日本技術士会東北本部特別顧問）

1 原子力に発した安全文化から見えてくる日本の課題

杉本 泰治（公益社団法人日本技術士会東北本部）

2 安全文化の視点から最近の事故を考察

森山 哲（公益社団法人日本技術士会東北本部）

3 安全文化理解におけるモデル化（図示化）の有用性

福田 隆文（長岡技術科学大学名誉教授）

4 安全文化・防災文化の共創と社会実装のあり方

齋藤 明（公益社団法人日本技術士会東北本部）

第4室

10:00～11:20 一般セッション

12:30～14:20 一般セッション

14:40～16:20 一般セッション

【6月27日（金）9:40～16:40】

第1室（講堂）

10：00～セッション時間未申告 オーガナイズドセッション

「防災と福祉」

司会：加藤 孝明（東京大学生産技術研究所教授）

講演者：調整中

13：00～14：30 オーガナイズドセッション

「安全な機械システムの設計・使用のための実践・教育」

司会：北條 理恵子（長岡技術科学大学工学研究科准教授）

- 1 イノベーションを支える人材育成のためのシステム安全工学教育
木村 哲也（長岡技術科学大学工学研究科教授）
- 2 電気駆動式ショベルの安全要求事項に関する産業用ロボットとの対比に基づく研究
三好 孝典（長岡技術科学大学工学研究科教授）
- 3 野生動物の安全なわなに関する実証実験ーイノシシの捕獲ケージに関する色刺激の効果
山村 則子（有限会社栄工業代表取締役社長）
- 4 安全な除雪作業のためのロータリ除雪車の始業点検教育ツールの基盤開発
高橋 憲吾（長岡技術科学大学工学研究科助教）
- 5 VRを活用した安全教育とその効果についてーアンケート調査と定量評価実験
北澤 良平（清水建設株式会社）
- 6 機械安全におけるリスクアセスメント手法の医療機関への活用に関する研究
中野 広基（北里大学保健衛生専門学院臨床工学専攻科）
- 7 職業性脊椎損傷の外骨格使用者への介助行動における リスクアセスメントの提案
北條 理恵子（長岡技術科学大学工学研究科准教授）

14：40～16：40 オーガナイズドセッション

「レジリエンスーその考え方を安全に活かすには？ー Part 2 ー」

司会：狩川 大輔（東北大学工学研究科准教授）

- 1 地上から安全運航を見守るためにーXF レジリエンスチームの取り組みー
菊池 肖子（日本航空株式会社オペレーション本部オペレーションコントロール部）
- 2 東北電力・東通原子力発電所における Safety-II の取り組み
松宮 史直（東北電力株式会社東通原子力発電所品質保証室長）
- 3 レジリエンスーその考え方を安全に活かすには？ー
狩川 大輔（東北大学工学研究科准教授）

第2室

10:00～11:30 オーガナイズドセッション

「プロセス災害を狙ったサイバー攻撃に関するリスクマネジメント」

司会：田邊 雅幸（横浜国立大学 IMS 客員准教授）

浜口 孝司（名古屋工業大学社会工学科准教授）

- 1 リスクベースアプローチを用いたサイバーセキュリティマネジメント

浜口 孝司（名古屋工業大学社会工学科准教授）

- 2 プロセス災害をターゲットとしたサイバー攻撃リスクアセスメント手法を用いたPSMとの統合

田邊 雅幸（横浜国立大学 IMS 客員准教授）

- 3 事業所でのサイバーセキュリティマネジメント取り組み紹介

十河 信二（三井化学株式会社生産・技術本部エンジニアリングセンター設備技術グループPSE技術チームチームリーダー）

13:00～14:30 オーガナイズドセッション

「地域レジリエンスに係る現状と課題・今後の在り方」

司会：長谷川 潤（さいたま市都市局）

- 1 地域レジリエンスと多様な主体の連携

磯打 千雅子（香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構特命准教授）

- 2 ネイバーフッドデザインと地域レジリエンス—まちを楽しみ、困った時に助け合える「暮らしのコミュニティ」

高村 和明（HITOTOWA INC. シニアディレクター）

- 3 専門家と市民の地域共同学習にもとづく水害リスクマネジメント

松田 曜子（京都大学防災研究所准教授）

14:40～16:10 オーガナイズドセッション

「現場の安全施工に向けてのアプローチ ～ソフトとハードの両面から～」

司会：須藤 英明（ものづくり大学技能工芸学部建設学科非常勤講師）

吉川 直孝（独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所機械システム安全研究グループ上席研究員）

- 1 「危険環境の対比型」(Before/After) 建設工事安全ポスターの製作

須藤 英明（ものづくり大学技能工芸学部建設学科非常勤講師）

- 2 鉄道・運輸機構における工事安全推進の取り組み

福井 義弘（独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構建設企画部担当部長）

- 3 土木工事の計画・設計フェーズにおける労働災害防止に関する取り組みについて

金子 聡志（東京電力ホールディングス株式会社原子力設備管理部原子力耐震技術センター土木調査グループ副長）

- 4 加速度センサを用いた歩行バランスの評価
陳 俊宇（関西大学大学院知識情報学専攻）
- 5 Safety-II と GJ（グジジョブ）を実現する新たな安全管理手法ー新ヒヤリ GJ 報告 AI アプリの開発についてー
田村 和佳子（一般社団法人仮設工業会調査研究支援アドバイザー）
- 6 オーストラリアにおける労働安全衛生行政施策等の紹介
吉川 直孝（独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所機械システム安全研究グループ上席研究員）

第3室

10：00～11：30 オーガナイズドセッション

「電力需要設備のスマート保安の標準化に向けた取り組み」

司会：西村 和則（名古屋大学未来材料・システム研究所客員教授）

- 1 送配電事業のスマート保安と規格化
伊佐治 宏子（中部電力パワーグリッド株式会社）
- 2 鉄鋼事業のスマート保安と規格化
末長 清佳（一般社団法人電気科学技術アカデミー代表理事）
- 3 高速道路事業のスマート保安と規格化
高木 竜太郎（中日本高速道路株式会社技術本部技術管理部担当部長）
- 4 プラント事業のスマート保安と規格化
福島 宗次（富士電機株式会社パワエレシテムインダストリー事業本部フィールドサービス統括部事業企画部主席）
- 5 施工管理事業のスマート保安と規格化
小林 浩（株式会社トーエネック技術研究開発部長）

13：00～14：20 一般セッション

14：40～16：10 オーガナイズドセッション

「静電気災害防止に関する最先端の研究」

司会：崔 光石（独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所安全領域長）

- 1 可燃性液体関連の静電気災害発生メカニズムに関する研究
遠藤 雄大（独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所主任研究員）
- 2 小型火花点火試験装置による双極性除電器からの異常放電の着火危険性評価
松永 武士（独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所）
- 3 電界シミュレーションによる帯電樹脂粉体への火花放電での電界特性の把握
小坂 丈敏（早稲田大学理工学術院創造理工学部講師）
- 4 接地針電極を使用した場合の沿面放電の特性

鈴木 輝夫（春日電機株式会社営業技術部部長）

5 絶縁性フレキシブルコンテナ内で発生する静電気放電

崔 光石（独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所安全領域長）

第4室

10:00～11:20 一般セッション

12:30～14:20 一般セッション

14:40～16:20 一般セッション

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム

「BVOC 研究の新展開ー進化論から新規計測法、大気質影響までの最新の知見ー」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会、統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同生態科学分科会、公益社団法人大気環境学会植物分科会

2. 共 催：日本農学アカデミー

3. 後 援：なし

4. 日 時：令和 7（2025）年 6 月 27 日（金）13：00 ～ 17：00

5. 場 所：オンライン開催

6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

植物が放出する揮発性有機化合物（BVOC）の主成分であるテルペン類は、大気中での反応性が高く、光化学反応を通してオゾンの生成を促進し、気象・気候に影響する二次有機エアロゾルの生成に関与する。また、情報伝達物質として植物ー植物間および植物ー昆虫間のコミュニケーションを媒介する。この機構を農業に活用した減農薬の試みや BVOC を感受することで病虫害耐性を高める物質群をつくる植物適応の事例などの研究成果も集まりつつある。また、同属内でもテルペン類を生産する種とそうでない種が存在し、かつ同一種内でもテルペン類の生産能力について大きな個体間差があるなど、遺伝的多様性を解き明かす研究も行われつつある。このように、様々な観点から研究対象となる BVOC について、最新の研究動向を網羅的に紹介するシンポジウムを開催し、研究分野の拡大を図るとともに、一般市民に本研究分野の成果がどのように社会貢献するのかについて、情報発信する（アウトリーチ活動）機会を設けることとした。

9. 次 第：

13:00～13:05 開催挨拶

玉置 雅紀（公益社団法人大気環境学会植物分科会代表／国立研究開発法人国立環境研究所生物多様性領域領域長）

13:05～13:10 趣旨説明

谷 晃（日本学術会議連携会員／日本農学アカデミー会員／静岡県立大学食品栄養科学部教授）

講演

前半司会：青野 光子（武庫川女子大学環境共生学部教授）

13:10～13:40 「イソプレン放出を獲得したコナラ属の系統進化学」

佐竹 暁子（日本学術会議連携会員／九州大学大学院理学研究院教授）

13:40～14:05 「コナラ属常緑広葉樹のテルペン類合成酵素の遺伝子配列比較」

矢崎 一史（京都大学生存圏研究所特任教授）

14:05～14:30 「植物間コミュニケーションを利用した作物生産」

塩尻 かおり（日本学術会議連携会員／龍谷大学農学部教授）

（休憩：10分）

後半司会：平野 高司（日本学術会議連携会員／日本農学アカデミー会員／北海道大学大学院農学研究院教授）

14:40～15:10 「より精確な BVOC の測定方法と BVOC 放出目録の整備」

谷 晃（日本学術会議連携会員／日本農学アカデミー会員／静岡県立大学食品栄養科学部教授）

15:10～15:35 「植物－昆虫間コミュニケーションを大気汚染が狂わせる」

増井 昇（静岡県立大学食品栄養科学部助教）

15:35～16:00 「BVOC の大気質影響のモデル評価」

井上 和也（国立研究開発法人産業技術総合研究所安全科学研究部門研究グループ長）

16:00～16:25 「緑化樹木の都市大気環境への影響：オゾン吸収と BVOC 放出のトレードオフ」

國分 優孝（公益財団法人東京都環境公社東京都環境科学研究所主任研究員）

16:25～16:55 総合討論

進行：谷 晃（日本学術会議連携会員／日本農学アカデミー会員／静岡県立大学食品栄養科学部教授）

16:55～17:00 閉会挨拶

荊木 康臣（日本学術会議連携会員／山口大学農学部長／大学院創成科学研究科教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：なし

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「危機にある「戦争関連資料」―歴史的文化遺産として残すために―
(第 30 回史料保存利用問題シンポジウム)」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会、史学委員会アーカイブズと社会に関する分科会、
日本歴史学協会
2. 共 催：なし
3. 後 援：全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、日本アーカイブズ学会、一般社団法人日本考古学協会
4. 日 時：令和 7（2025）年 6 月 28 日（土）13：30 ～ 17：30
5. 場 所：一橋大学国立キャンパス東 2 号館 2201 室（東京都国立市中 2－1）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

令和 7（2025）年は日本の終戦から 80 年を迎える節目の年にあたる。この間に戦争体験者はきわめて少数となり、関係者が遺した記録や遺品・遺物の散逸や、関係した遺構・遺跡等が消滅しかねないことが危惧されている。

「戦争関連資料」には、行政文書をはじめ、個人の体験を記録した日記や手紙のほか、写真・映像・絵画・記念碑・慰霊碑等の多岐にわたるアーカイブズがあり、「語り部」による「証言記録」オーラル・ヒストリーも含まれるが、現状ではそれらの収集・保存・公開が、関係機関において整備されているとはいえない状況にある。

一方で近年は、旧日本軍の軍事施設等が戦争遺跡として注目され、全国各地で文化財に指定する動きや、自治体が都市空襲についての調査委員会を立ち上げ、市民を中心とした空襲の調査研究活動から資料館建設に至ったケースも見られるなど、戦争の記憶を風化させないための新たな動きも始まっている。

「戦争関連資料」や近代以降の戦争遺跡は、すべての市民が共有すべき「歴史的文化遺産」であり、これまでも平和博物館や戦争資料館等で保存・公開されてきたが、今まさに保存・利用体制を拡充していくことが喫緊の課題である。

そこで、30 回目となる史料保存利用問題シンポジウムでは、「戦争関連資料」を歴史的文化遗产としてどのように残すのかについて考えていきたい。

9. 次 第：

総合司会：大橋 幸泰（日本学術会議第一部会員／早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

13：30～13：35 開会挨拶

若尾 政希（日本学術会議連携会員／日本歴史学協会委員長／一橋大学名誉教授）

13：35～13：40 趣旨説明

新井 浩文（日本歴史学協会史料保存利用特別委員会委員長）

13：40～13：55 問題提起『戦争関連資料』の保存状況について

東山 京子（中京大学社会科学研究所研究員）

13：55～14：25 第1報告：『戦後80年』で求められること—平和博物館の経緯と課題—（仮）

山辺 昌彦（公益財団法人政治経済研究所主任研究員）

14：25～14：55 第2報告：「戦争記念碑・慰霊碑の歴史資料的価値について」

檜山 幸夫（中京大学名誉教授）

14：55～15：25 第3報告：「国史跡『陸軍板橋火薬製造所跡』の保存と活用」（仮）

鈴木 淳（東京大学大学院教授）

15：25～15：55 第4報告：「前橋空襲と復興資料館開館について」

手島 仁（一般社団法人群馬地域学研究所代表理事）

15：55～16：15 休 憩

16：15～17：15 パネルディスカッション

パネリスト：東山 京子・山辺 昌彦・檜山 幸夫・鈴木 淳・手島 仁

司会：新井 浩文（日本歴史学協会史料保存利用特別委員会委員長）

吉田 政博（日本歴史学協会文化財保護特別委員会幹事）

17：15～17：25 コメント：林 美和（昭和館学芸部学芸課長）（仮）

17：25～17：30 閉会挨拶：松本直子（日本学術会議第一部会員／岡山大学文明動態学研究所教授）

10. 関係部の承認の有無： 第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無： 無

（下線の講演者等は、主催委員会・分科会委員）

公開シンポジウム

「カーボンニュートラルに向けた水素の多面的な利活用～第1回 水素を作る～(仮)」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議物理学委員会、材料工学委員会、化学委員会、総合工学委員会
2. 共 催：日本物理学会、応用物理学会、日本化学会、MRS-J、日本金属学会、
電気化学会、水素エネルギー協会、水素科学技術連携研究会（予定）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和7（2025）年8月1日（金）9：30 ～ 17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

社会の喫緊の課題であるカーボンニュートラルに向けて産業界と様々な学術分野の連携を図り、水素利用に関する課題を明確化する。水素の利活用というテーマは非常に広い分野が関係するため、水素を「作る」「運ぶ」「使う」等のキーワードで、複数回のシンポジウムを行うことを想定し、第1回は「作る」ことにフォーカスして、産業界で求められている需要を共有し、水素を作る技術とその関連研究の講演と、今後の水素連携につながる議論を行う。

9. 次 第：

9：30～9：40 開催挨拶

常行 真司（日本学術会議第三部会員／東京大学大学院理学系研究科教授）（10分）

9：40～9：50 来賓挨拶

文部科学省環境エネルギー課関係者（10分）

9：50～10：00 来賓挨拶

経済産業省水素アンモニア課関係者（10分）

10：00～10：30 基調講演

佐々木 一成（日本学術会議連携会員／九州大学大学院工学研究院機械工学部門副学
長／主幹教授）（30 分）

10:30～12:00 講演（産業界 3 件）

射場 英紀（トヨタ自動車株式会社 先端材料技術部 CPE（チーフプロフェッショナル
エンジニア））（30 分）

河野 佳織（日本学術会議連携会員／日本製鉄株式会社フェロー）（30 分）

佐藤 康司（ENEOS 株式会社執行理事中央技術研究所長）（30 分）

12:10～13:30 昼休憩

13:30～16:00 講演（学術界 5 件 ご所属確認中）

折茂 慎一（日本学術会議連携会員／東北大学材料科学高等研究所（WPI-AIMR）所長
／東北大学金属材料研究所教授）（30 分）

大西 洋（神戸大学大学院理学研究科化学専攻教授、分子科学研究所特別研究部門教
授（クロスアポイントメント））（30 分）

堂免 一成（信州大学アクア・リジェネレーション機構特別特任教授）（30 分）

光島 重徳（横浜国立大学大学院工学研究院機能の創生部門教授）（30 分）

高井 健一（上智大学理工学部機能創造理工学科教授／理工学研究科委員長）（30 分）

16:15～16:55 パネルディスカッション

16:55～17:00 閉会挨拶

玉田 薫（日本学術会議第三部会員／九州大学主幹教授・副学長）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連
絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「マテリアルとライフの融合サイエンス」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議歯学委員会基礎系歯学分科会、歯学委員会病態系歯学分科会、
一般社団法人歯科基礎医学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：日本生命科学アカデミー（予定）
4. 日 時：令和 7（2025）年 9 月 5 日（金）17：40 ～ 19：10
5. 場所：北九州国際会議場（福岡県北九州市小倉北区浅野 3 丁目 9-30）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

歯科医療には、歯周組織の再建・再生のために多くのマテリアルが使用される。これらのマテリアルはマテリアルサイエンスのみならず、ライフサイエンスに基づき研究開発する必要がある。マテリアルの生体適合性と生体機能性（組織形成能、抗菌性など）は、材料表面と生物相間の界面反応の結果として発現する。すなわち、マテリアルの性能を支配する生体適合性や生体機能性は、マテリアル自体の表面と生体組織との物理化学・生化学反応によって支配される。本シンポジウムでは、これら一連の学術研究を「マテリアルとライフの融合サイエンス」と定義し、ライフサイエンスを歯科医療におけるマテリアル・医療機器の研究開発に役立てる方策について討論し、今後の学術研究戦略を展望する。

9. 次 第：

座長 塙 隆夫（日本学術会議第三部会員／大阪大学大学院工学研究科特任教授／神戸大学大学院医学研究科客員教授）

松本 卓也（日本学術会議連携会員／岡山大学学術研究院医歯薬学域教授）

17:40-17:45

1) オープニングリマークス

樋田 京子（日本学術会議第二部会員／基礎系歯学分科会委員長／北海道大学大学院

歯学研究院口腔病態学分野血管生物分子病理学教室教授／一般社団法人
歯科基礎医学会研究委員会委員)

17:45-17:50

2) オーバービュー

埴 隆夫 (日本学術会議第三部会員／大阪大学大学院工学研究科特任教授／神戸大学
大学院医学研究科客員教授)

17:50-18:15

3) 骨代謝に倣った新規生体材料開発

松本 卓也 (日本学術会議連携会員／岡山大学学術研究院医歯薬学域教授)

18:15-18:40

4) 骨質再建のための材料表面/生物相界面反応理解とその人為的制御

松垣 あいら (大阪大学大学院工学研究科准教授)

18:40-19:05

5) バイオミネラリゼーションに基づく歯質・歯周組織再生材料の構築

大矢根 綾子 (日本学術会議連携会員／国立研究開発法人産業技術総合研究所ナノ材
料研究部門総括研究主幹)

19:05-19:10

6) クロージングリマークス

石丸 直澄 (日本学術会議連携会員／基礎系歯学分科会副委員長／東京科学大学大学
院医歯学総合研究科口腔病理学分野教授／一般社団法人歯科基礎医学会
編集委員会委員)

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

○国内会議の後援（2件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. Japan Open Science Summit 2025 (JOSS2025)

主催：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所
 国立研究開発法人科学技術振興機構
 国立研究開発法人物質・材料研究機構（予定）
 文部科学省科学技術・学術政策研究所
 国立研究開発法人情報通信研究機構
 一般社団法人学術資源リポジトリ協議会
 情報知識学会
 合同会社 AMANE

期間：令和7年6月23日（月）～ 6月27日（金）

場所：オンライン開催（一部ハイブリッド：国立情報学研究所会議室（予定））

参加予定者数：約250～500名（前年度実績）

申請者：情報知識学会 会長 芦野 俊宏

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

2. こども環境学会 2025年大会（高知）『インクルーシブなこども環境ーこどもの自由は土佐の山間よりー』

主催：公益社団法人こども環境学会

共催：高知県、高知市、高知大学、高知工科大学

期間：令和7年5月30日（金）～6月1日（日）

場所：高知工科大学・高知県立大学 永国寺キャンパス（オンライン併用）

参加予定者数：約300名

申請者：公益社団法人こども環境学会 代表理事 仙田 満

審議付託先：第一部、第二部、第三部

審議付託結果：第一部、第二部、第三部承認

○今後の予定

●幹事会

第 3 8 5 回幹事会	令和 7 年 5 月 3 0 日（金）	1 4：3 0 から
第 3 8 6 回幹事会	令和 7 年 6 月 3 0 日（月）	1 4：3 0 から
第 3 8 7 回幹事会	令和 7 年 7 月 2 8 日（月）	1 4：3 0 から
第 3 8 8 回幹事会	令和 7 年 8 月 2 9 日（金）	1 4：3 0 から
第 3 8 9 回幹事会	令和 7 年 9 月 2 6 日（金）	1 4：3 0 から

●総会

第 1 9 4 回総会	令和 7 年 4 月 1 4 日（月）～1 6 日（水）
第 1 9 5 回総会	令和 7 年 1 0 月 2 7 日（月）～2 9 日（水）